

原 著

看護学生のアダルトチルドレン特性と バーンアウト症候群との関連

新山悦子*¹ 塚原貴子*¹ 笹野友寿*²

要 約

看護学生107名を対象にアダルトチルドレン (Adult children; 以下, AC と略記) 特性とバーンアウト (Burnout Syndrome; 以下, BO と略記) との関連を明らかにするために, 自記式質問紙調査を実施した。その結果, BO の平均値は3.53 (SD=0.98) であり, 燃え尽き度は先行研究よりも燃え尽き傾向~うつ状態の者が多かった。また AC 特性の平均値は10.18 (SD=4.84) であり, AC 特性のカットオフポイントであると指摘されている12点以上の者が40.19%であった。

AC 特性から BO が出現するという仮説のもと, AC 特性が BO をどの程度予測しうるかを調べるため, AC 特性を独立変数, BO を従属変数として単回帰分析を行なった。その結果, AC 特性から BO への影響については, 連続性を積極的に支持することができ, 本研究の仮説をほぼ支持するものと考えられた。特に「私は情け容赦なく自分を批判する」「私は何でも楽しむことができない」「私は自分のことを真剣に考えすぎる」「私は他人と親密な関係を持ってない」「私は自分が変化を支配できないと過剰に反応する」の5項目が BO 得点と関連が強かった。

AC 特性は BO を導き, さらに自尊感情の低下と関連がある可能性が示唆された。

はじめに

近年, 看護学生の約3割がバーンアウト症候群 (Burnout syndrome; 以下, BO と略記) であると報告されている¹⁾。BOとは, Maslachによると「心的エネルギーが絶えず過度に要求された結果, 極度の心身の疲労と感情の枯渇を主とする症候群であり, 卑下, 仕事嫌悪, 思いやりの喪失²⁾と定義づけられている。BOは, 単に学生だけの問題ではなく, 患者に対するケアの質を左右する重大な問題であり, 適切なメンタルヘルスサービスは重要な課題である。

従来の看護学生における BO の要因として, 膨大な実習記録の多さ³⁾ や実習中のカンファレンスでの実習計画の発表¹⁾ などが報告されている。さらに看護師においては, BOを経験しやすい個人要因として, ソーシャルサポートの有無⁴⁾, ストレス認知・コーピング⁵⁾, 理想, 希望, 期待感が高く, 完全主義, 徹底主義, 妥協を拒む性格, 責任感, 使命感が強く献身的であることが指摘されている⁶⁾。しかし, これらの報告の対象はほとんどが看護師であり, 看護学生の個人の脆弱性に関する報告は少なく, 看護

学生の BO を十分検討できているとは言い難い。

ところで笹野・塚原⁷⁾は, わが国の看護学生において約16%がアダルトチルドレン (Adult Children, 以下 AC と略記) 特性を持っていることを明らかにした。AC 特性とは, アルコール依存症の家族の中で子供時代を送った大人たちを指す (Adult Children of Alcoholics, 以下 ACOA と略記)。しかし現在は, 「両親の仲が悪いけんかの絶えない家族」「両親の離婚」「親の死別」等の「機能不全家族」の中でトラウマを経験し, 特徴的な性格, 行動特性を身につけて大人になった人 (Adult Children of Dysfunctional Family, 以下 ACOD と略記) もまとめて「AC 特性」と総称している。細見⁸⁾らは, 看護師における AC 特性に特徴的な性格, 行動特性である共依存傾向と BO との間に密接な関係があることを指摘している。また塚原・新山⁹⁾は, 看護学生の外傷的出来事として, 「両親の離婚」「親の不仲」「親との死別」「父親から母親への暴力」があることを明らかにしている。これらのことから AC 特性を持つ看護学生が BO を経験しやすいことが予測できる。しかし, 看護学生の AC 特性と BO との関連についての報告

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 *2 第一福祉大学 (連絡先) 新山悦子 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

は見当たらない。

また稲岡⁶⁾は、BOに陥りやすい看護師の傾向分析において、上司や患者から認めてもらいたいという欲求を強く持ち、他人からの無視には耐え難いような人で、他人からの評価を生きがいにしている人であると指摘している。この性格傾向は、AC特性に特徴的な性格と類似している。上記のことも合わせると、看護学生のAC特性とBOは関連があることが予測できるが、先で述べたように看護学生のAC特性とBOとの関連についての報告は見当たらない。Maslach²⁾は「事前に労働環境に対する知識を得たうえで自己洞察を安全に深め、自分の気持ちをコントロールすることができ、他人との情緒的な相互作用をバンドルできるような能力を培うことがBOの予防に必要であり、その技術を専門学校段階で教授すべきである」と述べており、看護学生に対するBOの予防について学校現場で教育していくことが必要であると考える。

したがって本研究は、看護学生のAC特性とBOとの関連と、AC特性の中でもどのような特徴を持つ学生がBOになりやすいのかを明らかにすることにより、看護学生におけるストレス低減の基礎資料とすることを目的とした。

方 法

1. 対象者と調査実施時期

対象者は、A県内の看護学生で同意が得られた119名であった。そのうち有効回答者107名(有効回答率89.92%)が分析対象とされた。調査実施時期は、2004年7月であった。

2. 調査方法

上記の対象者に対し、自記式質問紙調査を実施した。調査方法は、まず調査者が対象である看護学生に対し、調査への協力依頼をした。倫理的配慮として、回答は無記名、かつ自由意志であり、回答しなくても回答者が不利益を被らないこと、回答の途中で止めてもよいこと、結果は授業評価には反映しないこと、プライバシーは保護されること、本調査結果を研究的に分析すること、質問紙は研究終了後に調査者が責任をもって破棄すること等を口頭で説明した。また回収は、調査者が行った。

以下に質問紙の構成を示す。

1) AC特性の評価には、AC尺度を用いた。これはWoititz JG^{10,11)}が著書に記載し、緒方¹²⁾が訳したものを先行研究⁵⁾で作成、使用されている。回答は、各項目について³⁾件法(2:はい, 1:ど

らともいえない, 0:いいえ)で評定され、合計点がAC特性得点とされた。

2) BOの評価には、Pines A & Kafry D¹³⁾によって作成されたBO尺度の日本語版を使用した。これは、稲岡¹⁴⁾によって邦訳されたもので身体的疲弊(例えば、疲れやすい、気が弱くなる)、心理的疲弊(例えば、気がめいる、投げやりの気持ちになる)、精神的疲弊(例えば、自分が嫌になる、まわりの人に対して幻滅感や憤りを感じる)の3つの観点からなる21項目であり、信頼性、妥当性の確認が十分に行われている。本研究においては、これを7件法(1:まったくない~7:いつもある)にて回答を求めた。またこの尺度における得点は、 $A + (32 - B) / 21$ の算定式を用いて計算された。この式のAにはA項目(1, 2, 4, 5, 7-18, 21)の回答数字の合計点、BにはB項目(3, 6, 19, 20)の回答数字の合計点を代入して算定される。このようにして計算された得点は、2.0~2.9点:精神的に安定し心身ともに健全である、3.0~3.9点:Burn outの兆候がある、4.0点以上:Burn outに陥っている、5.0点以上:臨床的うつ状態であること示す。

なお分析は、SPSS Ver.12.0Jを用いて単回帰分析を行った。

結 果

BOの平均値は3.53(SD=0.98)、AC特性の平均値は10.18(SD=4.84)であり、AC特性のカットオフポイントとして指摘されている12点以上の者は43名(40.19%)であった(図1)。さらに燃え尽き度を図2に示す。「精神的に安定し心身ともに健全である」は27名(25.23%)、「BOの兆候がある」は41名(38.32%)、「BOに陥っている」は26名(24.30%)、「臨床的うつ状態である」は13名(12.15%)であった。

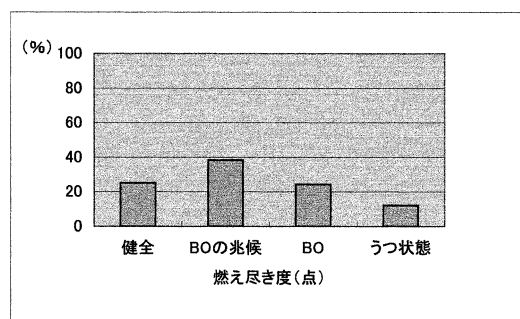


図1 看護学生における燃え尽き度

次にAC特性とBOの関連を検討するために、AC特性得点とBO得点を散布図にて確認した(図3)。さらにピアソンの積率相関係数にて検討した結果、

表1 AC特性とBOの相関(N=106)

変数	BO:計	AC:計	AC1	AC2	AC3	AC4	AC5	AC6	AC7	AC8	AC9	AC10	AC11	AC12
BO:計														
AC:計	.661**													
AC1	.069	.308**												
AC2	.216*	.390**	.106											
AC3	.371**	.596**	.129	.336**										
AC4	.418**	.617**	.267**	.202*	.258**									
AC5	.502**	.598**	.107	.059	.336**	.240*								
AC6	.502**	.598**	.10719	.059	.336**	.240*	1.000**							
AC7	.411**	.551**	-.018	.197	.400**	.252**	.479**	.479**						
AC8	.411**	.551**	-.018	.197	.400**	.252**	.479**	.479**	1.000**					
AC9	.184	.371**	.004	-.014	.097	.144	.066	.066	.110	.110				
AC10	.161	.321**	-.009	.163	.050	.143	.124	.124	.080	.080	.060			
AC11	.386**	.669**	.187	.264**	.347**	.390**	.410**	.410**	.360**	.360**	.172	.162		
AC12	.284**	.406**	-.037	-.100	.176	.176	.262**	.262**	.105	.105	.235*	-.002	.230*	
AC13	.284**	.406**	-.037	-.100	.176	.176	.262**	.262**	.105	.105	.235*	-.002	.230*	1.000**

アダルトチルドレン特性の各下位尺度は、AC1～AC13と略記
計=各下位尺度の合計得点
BO=Burn Out Syndrome
AC=Adult Children
* p<0.05, ** p<0.01

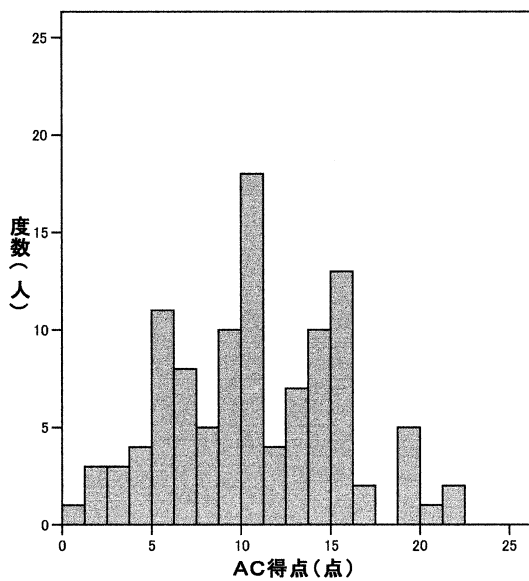


図2 ACの度数分布表

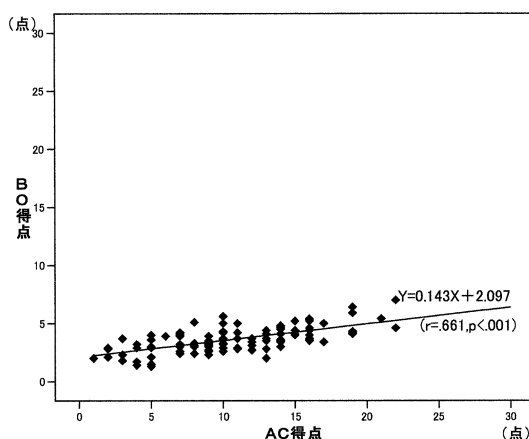


図3 AC特性とBOの散布図

相関係数は.661 (p<.001)であり、比較的強い相関がみられた(表1)。特に「私は情け容赦なく自分を批判する」(.418, p<.001)「私は何でも楽しむことができない」(.502, p<.001)、「私は自分のことを真剣

に考えすぎる」(.502, p<.001)、「私は他人と親密な関係を持ってない」(.411, p<.001)、「私は自分が変化を支配できないと過剰に反応する」(.411, p<.001)の5項目がBO得点と関連が強かった。

最後にAC特性からBOが出現するという仮説のもと、AC特性がBOをどの程度予測しうるかを調べるため、AC特性を独立変数、BOを従属変数として単回帰分析を行なった。結果を表2に示す。回帰直線は $Y=0.147X+2.097$ であり、 $F=81.521$ (p<.001)で重相関係数も有意であり、決定係数は.432であった。

表2 ACとBOにおける単回帰分析の結果

N	β	調整済みR ²	切片	推定値の標準誤差
107	.661	.437	2.097	0.79

考 察

本研究の目的は、看護学生のAC特性とBOとの関連を明らかにすることであった。

AC特性からBOが出現するという仮説のもと、AC特性がBOをどの程度予測しうるかを調べるため、AC特性を独立変数、BOを従属変数として単回帰分析を行なった。その結果、AC特性がBOを導くという仮説を支持する結果が得られた。すなわち、AC特性からBOへの影響については、連続性を積極的に支持することができ、本研究の仮説をほぼ支持するものと考えられる。

1. BOの特徴について

本調査におけるBOの平均値は3.53 (SD=0.98)であった。これは北條¹⁾の結果よりもやや低く、岡ら¹⁵⁾の結果よりもやや高いものであった。さらに松田¹⁶⁾、斉藤・稲岡¹⁷⁾の看護師におけるBOの得点よりも高いものであった。さらに燃え尽き度をみると、精神的に安定し心身ともに健全である者が25.23%、BOの兆候がある者が38.32%、BOに陥っている者が24.30%、臨床的にうつ状態である者が

12.15%であり、先行研究よりも燃え尽き傾向～うつ状態の者が多いことを示していた。これらの結果より、今後、学生指導をしていく上で憂慮すべき実態であると言える。

2. AC 特性の特徴について

本調査における AC 特性の平均値は10.18 (SD=4.84) ,であった。さらに AC 特性のスクリーニングのラインであると指摘されている12点以上の者が43名(40.19%)であった。これらは先行研究⁵⁾よりも高い値であった。

笹野・塚原⁷⁾は、AC 特性得点が12点以上の者は精神科医や臨床心理士の専門的なカウンセリングを受けることが望ましいことを指摘している。今後の看護教育においては AC 特性を考慮し、看護教員のみならず他職種の専門家とチームでこのような学生に関わっていくことが必要である。

3. AC 特性と BO について

本研究においてピアソンの積率相関係数にて検討した結果、相関係数は.661 (p<.001) であり、比較的強い相関がみられた。さらに AC 特性を独立変数、BO を従属変数として単回帰分析を行なった結果、AC 特性から BO への影響については、連続性を積極的に支持することができ、本研究の仮説をほぼ支持するものと考えられた。

本調査においては、特に「私は情け容赦なく自分を批判する」「私は何でも楽しむことができない」「私は自分のことを真剣に考えすぎる」「私は他人と親密な関係を持ってない」「私は自分が変化を支配できないと過剰に反応する」の5項目が BO 得点と関連が強かった。南は、BO に陥ると気分の不安定さや抑うつ感情を呈し、自尊感情が低下すると指摘し、さらに「燃えつき」とはある種のうつ状態であると考えられると述べている¹⁸⁾。また Bush SI *et al.* は、ベックの BDI といううつ病評価尺度を用いて、狭義の AC 特性はうつ状態が強くと、自己評価が低いと報告している¹⁹⁾。上記の5項目は、Stuart GW &

Sundeen SJ のいう、低い自尊感情に伴う自分や他人の批判、自分の喜びの否定、自己の重要性感覚の誇張、人間関係の障害である²⁰⁾。中でも「私は自分が変化を支配できないと過剰に反応する」は AC 特性の特徴的である共依存の代表的な障害である。つまりこれらのことから AC 特性は、うつ状態である BO になりやすいことが明らかになった。さらに狭義の AC 特性である ACOA のみならず、広義の AC 特性である ACOD もうつ状態から自尊感情が低下することが明らかになった。

また本研究において、看護学生の AC 特性と BO の関連が明らかとなった。新山・佐藤²¹⁾によると看護師のトラウマ反応と BO との関連は弱かったが、今回は強い関連が認められた。原因として、思春期以前の外傷体験と成人してからの職場の外傷体験の違いが考えられる。今後、これらの学生に対し、何らかの教育プログラム作成が必要であると考えられるが、まず BO と実習による外傷体験との関連等を究明していくことが必要であると考えられる。

結 語

1. 本調査における BO の平均値は3.53 (SD=0.98) であった。
2. 本調査における AC 特性の平均値は10.18 (SD=4.84) であり、AC 特性得点が12点以上の者は43名(40.19%) であった。
3. AC 特性尺度の中でも特に「私は情け容赦なく自分を批判する」「私は何でも楽しむことができない」「私は自分のことを真剣に考えすぎる」「私は他人と親密な関係を持ってない」「私は自分が変化を支配できないと過剰に反応する」の5項目が BO 得点と関連が強かった。
4. AC 特性を独立変数、BO を従属変数として単回帰分析を行なった結果、AC 特性から BO への影響について連続性を積極的に支持することができた。

文 献

- 1) 北條かおる：看護学生の意欲の実態とそれに関連する要因の検討 —当校における Burn-Out の実態調査より—, 第17回日本看護学会論文集 看護教育, 199-201, 1986.
- 2) Maslach C: Burned-out, Human behavior, 5(9), 16-22, 1976.
- 3) 北島謙吾, 石井京子: 看護学生のストレスマネジメント研究 II, 藍野学院紀要, 第6号, 49-54, 1992.
- 4) 南裕子, 山本あい子, 太田喜久子, 井部俊子, 上泉和子, 西尾鏡子: 看護婦のもえつき現象とストレスおよびソーシャルサポートの関係について, 聖路加看護大学紀要, 12, 1987.
- 5) 近澤範子: 看護婦の Burnout に関する要因分析 —ストレス認知, コーピングおよび Burnout の関係—, 看護研究,

- 21(2), 37-51, 1988 .
- 6) 稲岡文昭：燃えつき症候群に陥った看護婦の傾向分析から，看護学雑誌，48(9)，993-997，1984 .
 - 7) 笹野友寿，塚原貴子：大学生の精神保健に関する研究 —機能不全家族とアダルト・チルドレン—，川崎医療福祉学会誌，8(1)，47-53，1998 .
 - 8) 細見潤，藤本洋子，片平久美，古家隆：看護婦の「バーンアウト」と「共依存」傾向に関する研究，看護研究，32(6)，59-67，1999 .
 - 9) 塚原貴子・新山悦子：看護学生における入学前の外傷体験 —自由記述による収集と分類—（投稿中）.
 - 10) Woititz JG：Adult Children of alcoholics . *Health Communication* , Florida . , 1983 .
 - 11) ジャネット・G・ウオイティッツ著，斉藤学監訳：アダルト・チルドレン —アルコール問題家族で育った子供たち— . 金剛出版，東京，1997 .
 - 12) 緒方明：アダルトチルドレンと共依存 . 誠信書房，東京 . 1996 .
 - 13) Pines A and Kafry D：Tedium in the life and work of professional women as compared with men . *Sex Roles* , 7(10) , 963-975 , 1981 .
 - 14) 稲岡文昭，松野かおる，宮里和子：Burn Out Syndromeと看護 社会心理的側面からの考察，看護，34(8) , 129-137 , 1982 .
 - 15) 岡千鶴，古賀美智子，黒岩千代子，古賀典子：看護学生の実習における Burn-Out の実態とその関連要因についての考察，第20回日本看護学会論文集 看護教育，199-201，1986 .
 - 16) 松田久美子：看護者の Burnout とエゴグラムに示される個人特性との関連，看護研究，21(2) , 181-188 , 1988 .
 - 17) 斉藤千里，稲岡文昭：ICU の職場環境と看護婦の健康状態の関連についての検討，第16回日本看護学会集録 看護管理，20-23，1985 .
 - 18) 南裕子：燃えつき現象の精神看護学的推論，看護研究，21(2) , 12-19，1988 .
 - 19) Bush SI , Ballard ME and Fremouw W : Attributional style, depressive features , and self-esteem : Adult children of alcoholic and nonalcoholic parents . *Journal of Youth and Adolescence* , 24 , 177-185 , 1995 .
 - 20) Stuart GW and Sundeen SJ 著，樋口康子訳：新臨床看護大系，精神看護学I，医学書院，東京，267-309，1986 .
 - 21) 新山悦子，佐藤健二：看護師におけるトラウマ反応，バーンアウト症候群と身体症状との関連，第24回日本看護科学学会学術集会講演集，462，2004 .

（平成17年5月10日受理）

Association Between Adult Children Property and Burnout Syndrome on Nursing Students

Etsuko NIIYAMA, Takako TSUKAHARA and Tomohisa SASANO

(Accepted May 10, 2005)

Key words : adult children, burnout syndrome, codependence, self-esteem, nursing students

Abstract

A self-administered questionnaire survey was conducted among 107 nursing students to reveal an association between the property of adult children (hereafter abbreviated as AC) and burnout syndrome (hereafter abbreviated as BO). As a result, the mean value of BO was 3.53 (SD=0.98). With respect to the burnout intensity, more cases of burnout tendency-depression were observed than previous studies. Also, the mean value of AC was 10.18 (SD=4.84), and the ratio of those who had more than 12 points that was figured as a cut-off point for AC property was 40.19%.

With a hypothesis of AC property being responsible for appearance of BO, a single regression analysis was performed with AC property as an independent variable and BO as a dependent variable to investigate to what extent AC property can predict BO. The results showed that the continuity was actively supported in terms of the influence of AC property on BO and it was considered to virtually support the hypothesis of this research. Specifically, five responses that showed a stronger association with BO scores: "I harshly criticize myself," "I can not enjoy anything," "I take myself too seriously," "I can not build a close relationship with others" and "I overreact when I can not control changes."

AC property was suggested to lead to BO and, moreover, to be possibly associated with a decrease in self-esteem.

Correspondence to : Etsuko NIIYAMA

Department of Nursing , Faculty of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki , 701-0193 , Japan

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.15, No.1, 2005 117-122)